

コヒオドシを初めてみたのは日本産ではなくて、ヨーロッパ産原種の標本。中学1年のとき長兄の通う大学に日比さんというチョウを趣味とする学生さんがいて、兄がチョウ好きの私を紹介してくれ、学生寮の日比さんの部屋で見せてもらった彼の標本箱に、日本以外のチョウがたくさん並んでいるのに驚く。日比さんはクジャクチョウが滋賀県伊吹山と香川県伊吹山双方で記録されているが、あれはいずれも自分の記録だと語ってくれた。ヨーロッパには日本にもいるチョウがいくらかいるとは知っていたが、日本産よりもオレンジ部分が広くて明るい感じのコヒオドシと、翅表全体がきらきらと金属光沢に輝くベニシジミが特に印象に残った。右図は社会人となってフランスのチョウ愛好家と郵便による交換を始めたときに送ってもらったフランス産コヒオドシ。私自身の初採集は1968年の



June 8, 1961 Pont de Dere, France
コヒオドシ leg. B.Frederic



Aug. 12, 1968 上高地明神池河原
コヒオドシ

上高地で、その後1976年7月末に北海道阿寒湖湖畔にあった前田邸の黄色いタンポポが咲く庭園で、無数に飛び遊ぶコヒオドシの大乱舞を体験している。北海道では瀬戸瀬温泉や愛山溪の大雪登山口でも多数のコヒオドシを目にしたが、前田邸でみた光景は、おそらくネット一振りでも20数頭は一度に入ってしまったであろうほどの大饗宴で、その後もあのような大乱舞を目にしたことはない。

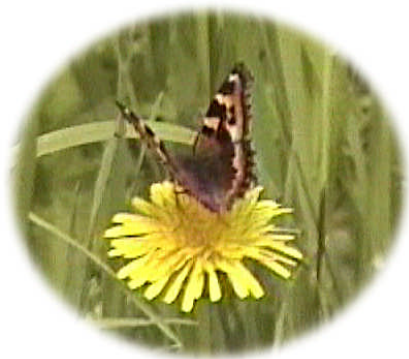
日本では本州産：*Aglais urticae esakii*、北海道産：*A. u. connexa* と亜種区別されているが、*connexa* はヨーロッパ産原種にくらべて前翅の黒紋がつながっていることを示したもの。本州産は北海道産よりも黒色部が発達している。本州では疑いなく高山チョウで、美ヶ原から三城牧場への下り百曲がりでもコヒオドシに出合ったときには、美ヶ原が高標高地であるという認識がなくてあれれと思ったものだ。北海道では平地でも普通にみられ、カメラで迫るにも花の蜜を吸う情景に容易にであうことができるチョウだ。



Aug. 5, 1986 長野乗鞍岳



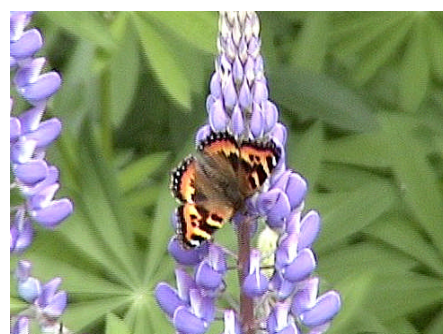
July 21, 1997 北海道瀬戸瀬温泉



June 25, 1996 愛山溪



July 21, 1997 瀬戸瀬温泉



July 7, 1999 オンネトー